

第7回 浦島太郎杯ヨットレース

第1レースのみ

2009, 5, 31 11:00:00 スタート

順位	[艇名]	[艇種]	[艇長名]	TCF	フィニッシュ			順位	所要時間			修正時間			所要時	着順	修正時
					時	分	秒		時	分	秒	時	分	秒			
1	KABU 蒼龍	YA 30S II	松野功	0.705	12	28	55	1		88	55	1	2	40.24	5335	1	3760.2
2	レフテナント V	ST 30	山崎俊治	0.705	12	39	30	2		99	30	1	10	7.80	5970	2	4207.8
3	沙真愛	ST 21	杉山秀治	0.618	13	2	52	6		122	52	1	15	56.23	7372	6	4556.2
4	パフ	Nakayosi 25	藤本治	0.637	12	59	36	4		119	36	1	16	11.13	7176	4	4571.1
5	P-2	ST 34	村上俊夫	0.716	12	53	30	3		113	30	1	21	13.62	6810	3	4873.6
6	Laputa	YA 30C	山本憲令	0.677	13	1	48	5		121	48	1	22	30.07	7308	5	4950.1
7	白玉丸	YA 21 JOG	牛嶋伸夫	0.626	13	27	49	8		147	49	1	32	29.75	8869	8	5549.7
8	まさかのポイント	Peterson 33	木下哲男	0.699	13	18	0	7		138	0	1	36	23.70	8280	7	5783.7
6	トレード ウインドウ	YA25mark II	森家庸	0.648												9	RET
10	シルフィード	Swift 33	那須	0.662												9	RET

レースレポート

北東の風 0-2m/sのなかのスタート、潮が強く、ラインから押し出され4艇リコール、蒼龍はうまくラインへ戻れたが、沙真愛、P-2、白玉丸は致命的なハンディーになるかと思われた。上マークはめったにレース参加のないパフが1位でまわった。この艇ではビールが燃料になるらしい。

上マークを回航するあたりで風は東、下マークあたりに到達する時点では南の時折ブローとこまかいセールトリムが必要となった。

12:10レース成立不可能と判断し上マークを1/2に短縮したところで、南のブローが時どき入りだした。潮も幾分弱くなってきた。上下のコースを外どりのジブトリムで抜け出した蒼龍が他艇をはなして1時間28分でフィニッシュ。

2番手のレフテナントは下マーク(回航時には風はクローズでも下マーク)でべたにつかまっており、3番手あらしいのP-2, Laputaも先ほど通過した本部艇にまた戻ってきた。後続のフニッシュをあきらめかけたころ南の風がコンスタントに入りだし、全艇はしり始めた。ラムラインからはるか遠くに流されていたトレードウィンドやシルフィールドも確実に下マークに向かっている。

レフテナントV,P-2、パフ、Laputa、沙真愛、まさかのボントンがフニッシュ。白玉丸がタイムリミット直前の蒼龍フニッシュから58分後にラインを切った。トレードウィンドとシルフィールドは下マークまでゆきりタイアでした。

炎天下、体内水分の不安があるオールドソルトではここまでということで2レース目は中止。レース後西の安定した風が吹き出したが、運営側もオールドソルトが多くマーク移動する気力もありません……………。

1レースですが、接近戦で、ワイワイ・ガヤガヤ 楽しくレースができました。 それではまた来年。

記 YIC岡村